

令和4年

1/15(土) - 3/6(日)

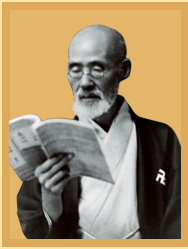
【無料入館日】テーマ展初日の1月15日(土)

一関市博物館
ICHINOSEKI CITY MUSEUM

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>
〒021-0101 岩手県一関市巖美町字沖野々215番地1
TEL 0191-29-3180 FAX 0191-33-4006

テーマ展 幕末明治を支えた大槻三代

大槻玄沢・磐溪・文彦



大槻文彦



大槻磐溪

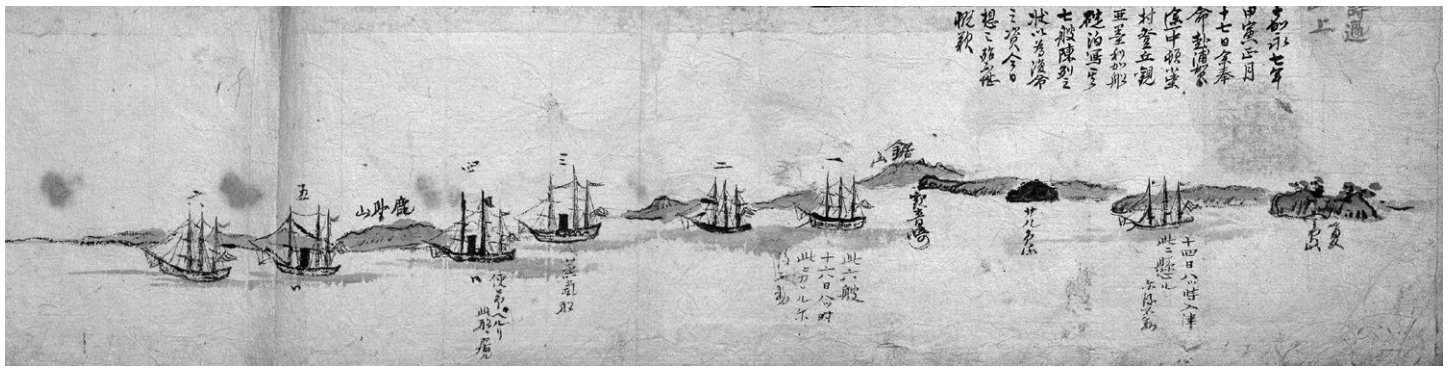


大槻玄沢

国語辞典を作った男
磐溪の三男。日本初の近代的国語辞典『言海』をつくる。明治という新たな時代に「国語」の確立を強く意識した男。『言海』の猫の説明文には、あの芥川龍之介も注目！

蘭学の家に生まれた漢学者
玄沢の次男。抜群の文章力で人々を魅了。黒船来航、戊辰戦争に立ち向かう。好奇心が強く、チマタで話題の記事を集めたスクラップ帳を作る！

蘭学界の第一人者
一関生まれの蘭学者。オランダから伝わった西洋の学問(蘭学)を研究。「鎖骨」という言葉を作り、「ピール」を初めて日本に紹介したのは彼！



大槻磐溪作「嘉永七年浦賀沖アメリカ船写生図」(「塵積成山」所収)

幕末明治を支えた大槻三代

玄沢・磐溪・文彦

幕末から明治にかけて、日本の政治体制や文化は大きく変化しました。それに際して大槻三代は、言葉や教養、思想をよりどころにして、その時代を生き、大きな役割を果たしています。江戸時代後期、当時最先端の学問である蘭学の第一人者となり、次世代を担う多くの人物を育成した玄沢。緊迫した対外情勢下で、開国論を唱え、戊辰戦争時には、仙台藩の精神的支柱として様々な起草文に関わった磐溪。日本初の近代的国語辞典『言海』の発行など国語研究で大きな足跡を残した文彦。このように三人は、日本の近代化をそれぞれの分野から支えました。本展覧会では、激動の時代に大槻三代が果たした役割を館蔵資料により紹介します。



大槻文彦着用大礼服



大槻玄沢使用石けん



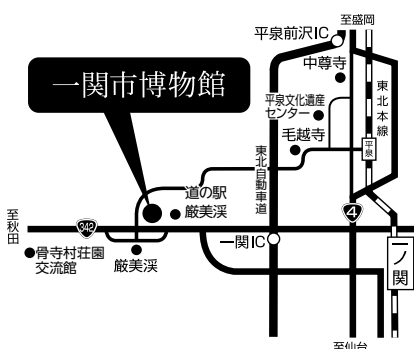
言海

講演会 (参加無料、要申込)

2月26日(土) 13:30~15:00
(スクラップブック) じんせきせいざん
「大槻磐溪の貼り交ぜ帳「塵積成山」の魅力」
 講師 岡部幹彦氏(元文化庁主任文化財調査官 公益財団法人江川文庫理事)
 定員 50名 ※ただし状況により、人数制限や中止の可能性があります。
 申込先 一関市博物館(TEL 0191-29-3180)

展示解説会 (入館料が必要です、申込不要)

1月16日(日) 11:00~、13:30~
 2月 6日(日) 11:00~、13:30~
 各40分程度、ただし状況により人数制限や短縮の可能性があります。



一関市博物館 〒021-0101 岩手県一関市厳美町字沖野々215番地1
 TEL 0191-29-3180 FAX 0191-33-4006
 ICHINOSEKI CITY MUSEUM <https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>



開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで) 休館日 毎週月曜日 但し祝日の翌日は開館し翌日が休館
 入館料 一般 300円(240円) 高校生・大学生 200円(160円) 中学生以下 無料 ※()内は団体(20名以上)割引料金
 次の方々の入館料は免除となります
 ①障がい者・介護者の方(障がい者手帳などを提示願います) ②65歳以上の一関市民の方(年齢・住所が証明できるものを提示願います)
 共通入場券 1年間有効1,000円/10日間有効500円
 ※有効期限内に限り、何度でも対象施設に入館可能(一関市博物館、芦東山記念館、石と賢治のミュージアム、大籠キリシタン殉教公園)
 交通案内
 [自動車]一関ICより西へ約7分(5km)、一関駅より西へ約17分(9km) [路線バス]一関駅前9番乗り場厳美溪方面行約20分(厳美溪バス停下車徒歩7分)
 新型コロナウイルス感染症への対応等により、変更となる可能性があります。
 最新の情報は、当館ホームページまたはお電話にてご確認くださいませうお願いいたします。